

製品名: Ub ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19487**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	80 50kDa

抗原情報

遺伝子名	UBA52
別名	UBB; Polyubiquitin-B; UBC; Polyubiquitin-C; RPS27A; UBA80; UBCEP1; Ubiquitin-40S ribosomal protein S27a; Ubiquitin carboxyl extension protein 80; UBA52; UBCEP2; Ubiquitin-60S ribosomal protein L40; CEP52; Ubiquitin A-52 residue ribosomal protein fusion product 1
遺伝子 ID	
SwissProt ID	P62987/P62979/P0CG47/P0CG48
免疫原	ヒト Ub の N 末端領域から得られた合成ペプチド。

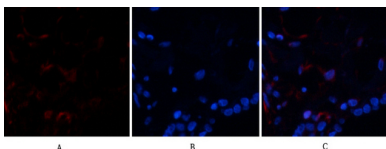
背景

ユビキチンは、核および細胞質に高度に保存されたタンパク質であり、26S プロテオソームによる分解の標的となる細胞タンパク質を標的とする上で重要な役割を果たします。また、クロマチン構造の維持、遺伝子発現の調節、ストレス応答にも関与しています。ユビキチンは、ポリユビキチン鎖、または無関係なタンパク質に融合した単一のユビキチン残基からなる前駆体タンパク質として合成されます。この遺伝子は、N末端にユビキチン、C末端にリボソームタンパク質 L40 からなる融合タンパク質 (C末端伸長タンパク質 (CEP)) をコードしています。この遺伝子に由来する複数の加工された擬遺伝子がゲノム中に存在します。 [RefSeq 提供、2008年7月]、機能: 標的リジンにモノマーまたはリジン結合ポリマーとして共有結合できるタンパク質修飾因子。Lys-48 結合ポリマーとしてタンパク質に結合した場合、通常はプロテアソームによる分解が起こります。モノマーまたは代替結合ポリマーとしてタンパク質に結合した場合はプロテアソームによる分解は起こらず、クロマチン構造の維持、遺伝子発現の調節、ストレス応答、リボソームの生合成、DNA 修復など、多くの機能に必要となる可能性があります。、その他: このリボソームタンパク質は、ユビキチンの C 末端伸長タンパク質 (CEP) として合成されます。、その他: ユビキチンは、頭部から尾部まで正確に繰り返されるポリユビキチン前駆体として合成されます。繰り返し数は種や系統によって異なります。種によっては、最後の繰り返しの後に最後のアミノ酸が存在します。ヒトの場合は Val です。一部のユビキチン遺伝子には、リボソームタンパク質 (L40 または S27a) に融合したユビキチンの単一コピーが含まれています。、PTM: 組み立てに使用されるリジンに応じて、いくつかの種類のリボソームタンパク質を形成できます。、類似性: リボソームタンパク質 L40e ファミリーに属します。、類似性: リボソームタンパク質 S27Ae ファミリーに属します。、類似性: ユビキチンファミリーに属します。、

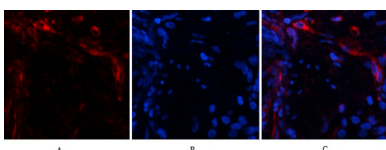
研究分野

リボソーム;

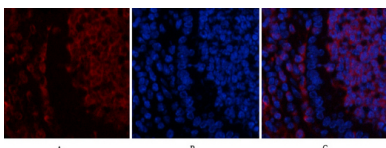
画像データ



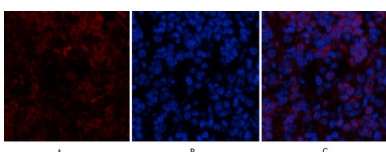
ヒト肺組織の免疫蛍光染色。1, Ub ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



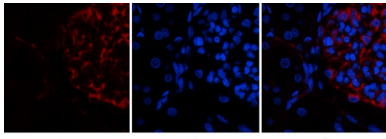
ヒト肺組織の免疫蛍光染色。1, Ub ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



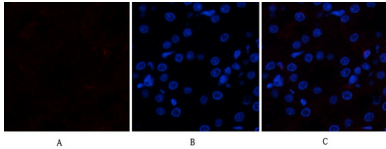
マウス脾臓組織の免疫蛍光染色。1, Ub ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



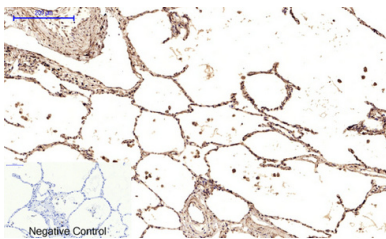
マウス脾臓組織の免疫蛍光染色。1, Ub ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B のマージ。



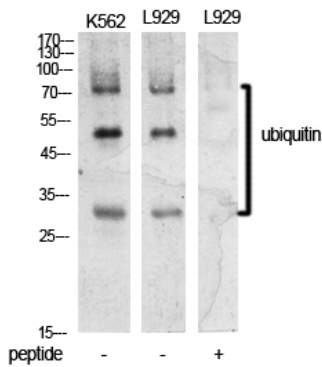
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, Ub ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



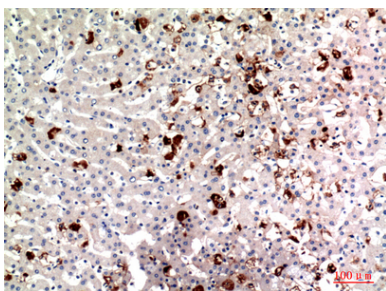
ラット腎臓組織の免疫蛍光染色。1, Ub ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



パラフィン包埋ヒト肺組織の免疫組織化学染色。1. Ub ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



Ub ポリクローナル抗体を用いた K562、L929 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈されました。



パラフィン包埋ヒト肝臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された